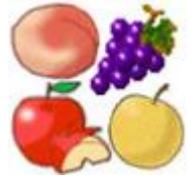


令和3年度 果樹情報 第8号

(令和3年7月5日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (6月後半、果樹研究所)

平均気温は、4半旬が20.3℃で平年より0.2℃低く、5半旬が20.7℃で平年より0.4℃高く、6半旬が21.9℃で平年より1.0℃高く経過しました。

4～6半旬の降水量は50.5mmで平年比62%と少なく、日照時間は66.5時間で平年比89%と平年並に経過しました。

2 土壌の水分状況

7月1日時点の土壌水分 (pF値: 果樹研究所なしほ場: 草生・無かん水) は、深さ20cmで2.9、深さ40cmで3.0、深さ60cmで3.0となっており、乾燥状態にあります (図1)。

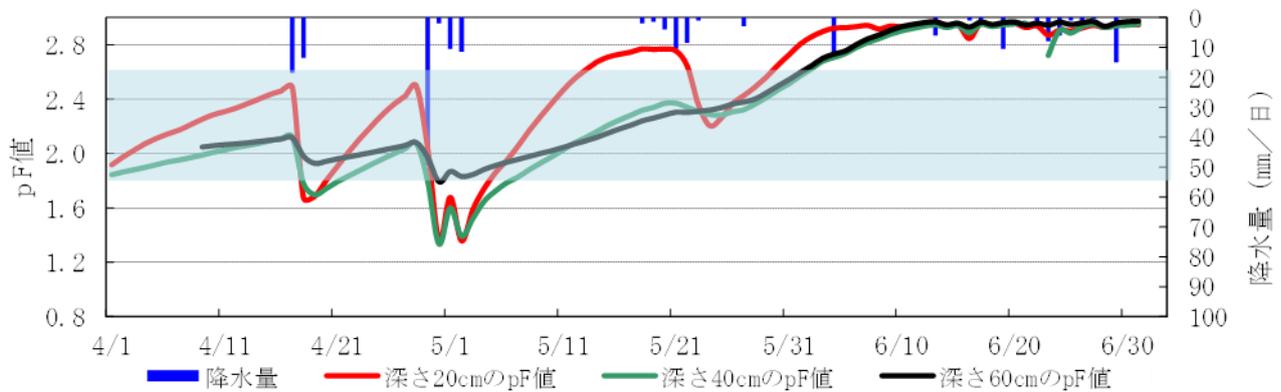


図1 土壌 pF 値の推移 (果樹研究所なしほ場: 草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6) を示します。

3 発育状況 (7月1日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が55.4mmで平年比114%、側径が56.9mmで平年比120%、「ゆうぞら」は縦径が51.6mmで平年比108%、側径が47.7mmで平年比114%と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、「あかつき」は小さく、「ゆうぞら」は平年並となっています。

イ 新梢生長

満開後80日における「あかつき」の新梢生長は、新梢長が8.0cmで平年比60%と平年よりかなり短く、展葉数が13.3枚で平年比86%と平年より少なく、葉色 (SPAD値) が43.9で平年比101%と平年並です。新梢停止率は90%で平年比104%と平年よりやや高くなっています。「ゆうぞら」は、新梢長が12.9cmで平年比86%と平年より短く、展葉数が13.4枚で平年比89%と平年より少なく、葉色 (SPAD値) が44.8で平年比102%と平年並です。新梢停止率は60%で平年比71%と平年より低くなっています。

ウ 核障害

満開後85日における「あかつき」の核障害発生状況は、核頂部亀裂が55.0%と平年より多く、縫合面割裂は10.0%で平年より少ない状況です (表1)。

エ 収穫状況

「はつひめ」の収穫開始は6月28日で平年より8日早く、昨年より5日早まりました。

オ 発育予測

DVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、今後の気温が平年並に推移した場合、収穫開始日は7月24日頃、収穫盛期日は7月27日頃で平年より7～8日早い見込みです (表2)。

表1 もも「あかつき」の核障害発生状況

(単位：%)

年		30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2021	核頂部亀裂	29.3	55.0	45.0	50.0	65.0	55.0	25.0	35.0	55.0	—	—
	縫合面割裂	0	0	0	0	0	0	35.0	55.0	10.0	—	—
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

表2 もも「あかつき」の収穫期予測（6月30日現在）

品種		本年予測	平年	昨年	平年差
あかつき	収穫開始日	7月24日	7月31日	7月27日	7日早い
	収穫盛期日	7月27日	8月4日	7月28日	8日早い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測

(2) なし

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「幸水」は縦径が 37.9mm で平年比 112%、横径が 45.9mm で平年比 114%、「豊水」は縦径 41.0mm で平年比 116%、横径が 44.9mm で平年比 118%と、両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年並です。

イ 新梢生長

満開後 70 日における「幸水」の予備枝新梢長は 111.2cm で平年比 102%と平年並、不定芽新梢長は 108.3cm で平年比 114%と平年より長い状況です。予備枝新梢の葉枚数は 28.9 枚で平年比 98%と平年並です。

満開後 80 日における「豊水」の予備枝新梢長は 110.0cm で平年比 103%と平年並、不定芽新梢長は 95.3cm で平年比 106%と平年よりやや長い状況です。予備枝新梢の葉枚数は 29.7 枚で平年比 103%と平年並です。

ウ 生育予測

7月1日現在のDVRモデルによる「幸水」の発育予測では、裂果期は7月2日頃で平年より12日早い見込みです。また、収穫盛期の予測は8月20日頃で平年より9日早い見込みです。

(3) りんご

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 58.1mm で平年比 114%、横径が 64.5mm で平年比 113%、「ふじ」は縦径が 50.9mm で平年比 112%、横径が 56.5mm で平年比 117%と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数で比較すると、両品種とも平年並です。

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽後 70 日における「巨峰」の新梢長は 138.2 cm で平年比 100%と平年並、展葉数は 17.7 枚で平年比 95%と平年よりやや少ない状況です。

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報]

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

4 栽培上の留意点

(1) 凍霜害の事後対策

4月の降霜により凍霜害が発生し、着果量が少ない樹では新梢の生育が旺盛になるなどの状況がみられています。園地の状況や樹勢に応じて今後の着果管理や新梢管理を適切に行いましょう。

仕上げ摘果や修正摘果など着果管理は、果形やサビ等の果面障害の状況を確認して、被害程度の軽い果実は残し、着果量の確保に努めましょう。

また、着果量の不足により、徒長枝の発生が多いと受光体制が悪くなり、果実生産や花芽の形成に影響を生じることがあります。今後の新梢の生育をよく観察し、徒長枝のせん除や摘心、誘引など適切な新梢管理に努めましょう。なお、新梢のせん除を過度に行うと樹勢衰弱を招くことがあるため、注意して実施しましょう。

凍霜害が発生した各品目ごとの今後の管理は、農業振興課ホームページの技術資料を参照してください。

「凍霜害が発生した果樹の今後の管理（令和3年6月16日、農業技術情報第11号）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyuu>

(2) ひょう害の事後対策

6月中旬の降ひょうにより被害を受けた品目では、果実や新梢の被害状況を十分に確認し、被害の程度に応じた着果管理や新梢管理を適切に行い、生育の回復に努めましょう。

着果量は果実や新梢、葉の損傷程度から判断し、被害程度が軽い場合は、摘果を強く実施すると樹勢が強くなるため、被害程度の軽い果実は適宜残して、樹勢の調節を図りましょう。

ひょう害が発生した果樹の今後の管理は、農業振興課ホームページの技術資料を参照してください。

「降ひょう被害が発生した農作物の技術対策（令和3年6月17日、農業技術情報第12号）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyuu>

(3) 共通

ア 土壌の水分管理

仙台管区气象台が7月1日に発表した東北地方1か月予報では、向こう1か月の降水量は平年並又は多いと見込まれます。

例年、梅雨期は降水量が多く、湿害を受けやすくなります。土壌の過湿は、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるため、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底しましょう。また、落葉が見られる場合は、着果量の見直しを行いましょう。

(4) もも

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫が始まっています。核や胚に障害を持つ果実は、成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 修正摘果

硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害を持つ果実などが徐々に目立ってきています。収穫を控えた中生種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施しましょう。果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いため、これらに注意して摘果を実施しましょう。

ウ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」の収穫期予測では、収穫開始が平年より7～8日早い見込みです。また、核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあるため注意が必要です。「あかつき」等中生種は7月上～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。また、降雨により園内に停滞水がみられる場合には、明きょを掘るなど速やかな排水に心がけましょう。

(5) なし

ア 新梢管理

「幸水」では、腋花芽の着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合は、新梢生長が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要があります。そのため、まだ誘引を終了していない場合は急いで作業を進めましょう。

また、新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、薬剤防除の散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できるため、「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

イ 着果管理

仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了させましょう。着果過多にならないよう、摘果は単位面積当たりの着果量を確認しながら作業を進めましょう。なお、裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控え、裂果が収束（満開後 90 日頃）したら修正摘果を実施しましょう。

(6) りんご

ア 修正摘果

果実肥大や果形、障害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大に伴い枝が下垂するため、支柱立て及び枝吊りを実施し、樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上を図りましょう。なお、高温条件下では果実に直射日光が当たることにより日焼け果の発生を助長するため、着果位置に注意しましょう。

(7) ぶどう

ア 着房数管理

着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生要因となります。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響することから、ベレーゾン（水回り）期までに着房数の見直しを行い、適正着房量に調整しましょう。最終着房数の目安は、「巨峰」では 3.3m^2 当たり 9～10 房、「高尾」では 10～11 房とし、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行いましょ。特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要となります。

イ 袋かけ・カサかけ

摘粒作業が終わりしだい、薬剤散布や袋かけ・カサかけを行いましょ。この作業は病虫害防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要な作業です。また、使用した枚数を把握し着房量調整の目安としましょ。棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、遮光率が高いカサの利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直しましょ。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご褐斑病、輪紋病

輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となります。また、降雨日が多くなると褐斑病の発生にも注意が必要です。7月上旬にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布しましょ。

イ りんご黒星病

6月下旬における新梢葉での発生ほ場割合は会津地域で平年よりやや高く、果実での発生も確認されています（令和3年6月28日付け病虫害発生予察情報・発生予報第3号）。罹病部位は見つけしだい除去して適切に処分するとともに、降雨前の薬剤散布を徹底しましょ。

ウ モモせん孔細菌病

6月下旬における新梢葉での発生ほ場割合は福島地域、伊達地域ともに平年並ですが（令和3年6月28日付け病虫害発生予察情報・発生予報第3号）、今後の気象によっては発生が増加するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。罹病部は二次伝染源となるため、見つけしだいせん除して適切に処分するなど、耕種的防除を徹底しましょ。また、薬剤防除は収穫前日数に十分注意して実施しましょ。

エ ももホモプシス腐敗病、灰星病

早生品種では灰星病の重要防除時期に当たるので、7月上旬及び中旬に灰星病防除剤を散布しましょ。中～晩生品種では灰星病とホモプシス腐敗病を同時防除するために、7月上旬にダコレート水和剤 1,000 倍を使用しましょ。薬剤防除は、収穫前日数に十分注意して実施しましょ。

オ なし黒星病、輪紋病

6月下旬の中通りにおける黒星病の新梢葉での発生は場割合は平年よりやや高い状況にあります(6月28日付け令和3年度病害虫発生予察情報・発生予報第3号)。特に、幸水では本病に対する果実の感受性が高い時期であるため、注意が必要です。罹病部位は見つけしだい除去して適切に処分するとともに、輪紋病も梅雨期が重点防除期であるため、7月上旬及び中旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行いましょ

カ ぶどう晩腐病

7月上旬の袋かけ前にはストロビードライフロアブル2,000倍を散布し、散布後速やかに袋かけを行いましょ。また、有核栽培では、摘粒作業が終わりしだい当該防除を行いましょ。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代の防除適期は、気温が平年並に推移した場合、7月4半旬頃であると推定されます。本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょ。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代の防除適期は、気温が平年並に推移した場合、7月5半旬頃であると推定されます。本種はもも等の核果類の新梢伸長が停止するとなし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、第2世代以降の防除を徹底しましょ。

ウ モモノゴマダラノメイガ

本種の被害が予想されるもも園では、7月2半旬頃までの防除を徹底しましょ。なお、被害果実は見つけしだい摘除して5日間以上水漬けするか、土中深く埋めるなど適切に処分しましょ。

エ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

表3 果樹研究所における防除時期の推定(令和3年6月30日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月15日	7月18日	7月16日	7月23日
平年並み	7月16日	7月20日	7月18日	7月25日
2℃低い	7月19日	7月24日	7月23日	7月31日

注) 起算日:モモハモグリガ6月23日、ナシヒメシンクイ6月15日
(演算方法は三角法)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行:福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL:<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>